

会 議 録

1 会議名

第1回大潟区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

・報告事項（公開）

(1) 第6次上越市行政改革推進計画の策定と事務事業評価の結果について

(2) (仮称) 上越市体操アリーナの整備状況について

(3) 「大潟のガスの沿革」サインパネル設置について

(4) 上越市大潟健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館の経営状況等について

・協議事項（公開）

(1) 平成31年度地域活動支援事業審査日程等について

(2) 自主的審議事項「鵜の浜温泉の活性化」について

3 開催日時

平成31年4月25日（木）午後6時30分から午後9時5分まで

4 開催場所

大潟コミュニティプラザ 大会議室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

・委員：佐藤忠治(会長)、君波豊(副会長)、梅木英亮、金澤幸彦、後藤紀一、佐藤博之、内藤恒、中嶋浩、細井義久、柳澤周治、山田幸作、山本宏

(16名中12名出席)

・総務管理部：八木部長

・行政改革推課：小酒井副課長、松岡係長

・スポーツ推進課：石澤参事、白倉係長

・ガス水道局北部営業所：飯塚参事

- ・ 鶴の浜人魚館：水澤社長
- ・ 事務局：鍵田大潟区総合事務所長、佐々木次長（総務・地域振興グループ長兼務）、渡邊教育・文化グループ長、平山市民生活・福祉グループ長、朝日総務・地域振興グループ班長、水澤総務・地域振興グループ主任

8 発言の内容（要旨）

【佐々木次長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【佐藤忠治会長】

- ・ 挨拶
- ・ 会議録の確認：佐藤博之委員に依頼

【佐々木次長】

協議事項に入る。これより会長が議長を務める。

【佐藤忠治会長】

それでは、報告事項（1）第6次上越市行政改革推進計画の策定と事務事業評価の結果について、総務管理部長、行政改革推進課副課長から説明をしてもらう。

【八木総務管理部長、小酒井副課長】

（概要説明の後、資料に基づき説明）

【佐藤忠治会長】

説明していただいたが、意見・質問はあるか。

【柳澤周治委員】

市民の意見集約など進め方について、日程が決まっているのであれば聞きたい。できるだけ早く行う方法としては、今年試行し、結論が出たものから来年度予算に反映していくことだと思うが。

【小酒井副課長】

関係する団体と協議を進めていく。どのくらいかかるかわからないが、今後4年間、協議を進め、整ったものから予算に反映させていきたい。

【八木部長】

今後どのように対応していくかについて、内部として方向性は持っているので、反映できるものは平成32年度当初予算に反映したい。その他についても、平成34年度までに結論や方向性を出す。例えば平成32年度から市の広報上越の発行を月2回から1回にしたいと考えているが、試行的にやったらどうか、町内会長だけでなく市民全体の意見を聞くべきではないかという意見もいただいている。また、情報量は月2回から1回になることによって1回の広報のページ数は恐らく増える。そうした中で、掲載していた国県情報をどのように集約していくかなどを今年度中に町内会長に周知するが、内容によって手法も違ってくる。例えば公の施設の再配置については、第三セクターや保育園、学校もある。問題になるのは三セクの温浴施設になるかと考えるが、これも今後の話になる。当然、行政が一方的に決めるということではない。その詳細なスケジュールをにわかに出すことはできないが、以前の頸北斎場の廃止統合のような轍は踏まない。

【柳澤周治委員】

4年間の取組み状況の中で廃止、見直しなどいろいろ出ているが、やむをえないものもあるかと思う。基本的に今後の収支のバランスを考えると人口減少もあり、取り組みの考え方が分からないということではないし、ある意味見直しは必要だと思うが、今、一生懸命やっている市民サービスとか、後押ししなければならないものに対して、一律的に見直しをするということではなく、一応テーブルに挙げたけれども後押ししなければならないものに対する見直しについては、考え方を積極的に変えてほしい。そのような柔軟なやり方を持ってほしい。市議会でも議論されるべきものと思うが、あえて大潟区内のものを今の視点で言わせてもらえば、例えば地域振興事業がある。大潟区では予算規模、住民参加率が最も高いかっぱ祭りがあるが、350万円の市の補助金を受けている。この補助率が5割になると100万円くらい減額になる。これを今までの規模でやるとなると現在1軒あたり500円を市民の協賛金としてもらっているが倍くらいもらうか、2日間やっていたものを1日に短縮してやらなければ維持できない状況が見えてくる。参加者が増えている中で地域の活性化とか、こういうものは後押ししていくべき案件だと思う。今後、十分地元の意見を聞いてやってもらいたい。また、犀潟駅と土底浜駅の管理運営費の見直しというのはどういうことか。トイレ、駐輪場の清掃は地元

の町内会がやっている。例えば土底浜駅で言うと6か月で39回清掃をやっている。月に直すと6.5回になる。30分で389円のお金をもらっているが、これを見直すという意味なのか。

【小酒井副課長】

駅舎の清掃については、乗降客数により定期清掃回数を整理させてもらった。土底浜駅では週2回、犀潟駅では週3回の定期清掃を行っている。両駅の定期清掃回数に変更となっていない。他の駅舎について、乗降客数により1回減らした。

【柳澤周治委員】

潟町駅は大潟区の管轄でないのか。

【佐々木次長】

潟町駅は、中央都市公園の施設として捉えており、所管は柿崎区の産業建設グループである。

【柳澤周治委員】

今回の見直しの中には、地域自治区の見直しなど非常に大きな問題も含まれているし、住民に直結するような問題もあり、高齢者福祉に関してはシニアパスポート、敬老会、外出支援事業などがあり、高齢化社会が進む中で、これに逆行するような見直しはどうかと思う。メリハリのある見直しをやってほしい。

【八木部長】

生きがいと健康づくりという部分で高齢者の就労率も高まっており、今までのやり方ではだめだと思っている。行革はサービスを切り捨てて、お金を削減すると思われがちであるが、老人クラブ連合会と話をしたり、違ったサービスに振り向けたり、一方的に切り捨てていくということはしたくないと考えている。また、評価に挙げた事務事業は今までどおりにするというものでもない。できれば皆さんから提案をいただければと思う。

【後藤紀一委員】

考え方の問題として、人口減少、少子高齢化が進むがコミュニティの範囲というのは、面積でも人口でも計れない中で適正なコミュニティの範囲というのをどうみるか。人口が減少しているから統廃合するということはいいかどうか、一番心配している。少子高齢化になると若者がいなくなり年寄りをどうやってみてもらうか、一概に効率化ばか

りを考えてもらっては困る。類似団体に比べると施設が多い。14自治体が合併したのでそういうことがおきているのはわかるし、見直しを行わなければならないのもわかるが、赤字になるからといって簡単に片づけてほしくない。

【八木部長】

コミュニティの単位として、一番小さいのは集落単位であり、小学校区、中学校区、次は地域自治区単位、それを複数まとめたところもあるだろうし、そういった単位のまとめ方もあると思う。昨年、地域福祉計画を策定したが、地域で支え合っていく部分が非常に大切だと考えた。小学校区、中学校区も地域自治区を越えた見直しをしなければならないのではないかと議会でも発言をさせていただいた。保育園も例外ではないし、公共施設も種別によっては違うのだろうと思っている。これから私どもで案をつくり協議をさせていただきたい。

【後藤紀一委員】

佐渡市は10市町村で合併したが、支所の数もどんどん減らされ困っているという話を聞いた。地域自治区制度を採用したからには、それを基本に考えてほしい。

【君波豊副会長】

犀潟駅のトイレ清掃について、週3回、特に夏冬は過酷な条件の中で頼んでやってもらっているのもう少し手当を上げてもらいたいと考えている。犀潟駅舎は県内最古の駅舎であると先日テレビ放映もされた。地域振興事業については過去にも見直しをされ、かつば祭りも補助金が減額されたと記憶をしている。かつば祭りの事業費が650万円くらいであり、350万円の補助金では54%の補助率となりちょうどよいと考えている。ただその中には地域住民からの賛助金や各企業、商店から協賛金をもらってやっていることを十分理解してもらいたい。そういう努力を日夜役員の皆さんがやっている。それから集客数も年々増えており1万8千人くらいある。他の区と比べても遜色ないイベントだと思っている。そういうことも考えて配分額をお願いしたい。総合事務所の関係で無駄なものを省くことは理解できるが、平成26年度に実施した事務事業の総点検の結果の中でコミプラの受益者負担という話があり、平成29年度末で検討を終えるということだったが、今回その文言がなくひと安心している。それでも今後検討されていくのか。1408の事務事業ひとつひとつが私どもへの貴重なサービスである。住民の皆さんと十分検討し合いながら具体的な内容を決めて進めていきたいとの説明があっ

た。是非そういう方向で進めてほしい。一つの例として、高齢者の交通事故が増えているが、運転免許証の返納事業が廃止となっており、逆行しているのではないか。時代に沿った、高齢者に沿った配慮をお願いしたい。

【八木部長】

先程来、説明しておりそのようにご理解をいただきたい。

【佐藤忠治会長】

コミュニティプラザ管理運営費の中の時間外受付だが、火葬許可書発行事務は今後どうなるのか。

【小酒井副課長】

今、どのくらいの範囲で見直しをするか検討中であり、詳細については今後説明させていただきます。

【柳澤周治委員】

人口減少が進んでいるが、合併時から2万人減少しているということだ。一方で外国人居住者がどのくらいいるのか。人口18万人に対する適正な財政規模、財政調整基金の適正な残高はどのくらいの額を見込んでいるか。

【八木部長】

総務省の国立社会保障人口問題研究所の試算を基に人口推計を出している。例えば外国人労働者が一部の製造業で数百人単位で入ってきている。私が承知している中では介護人材として、この6月にある企業が6人雇用すると聞いているが、今後どのくらいになるか読めない部分である。今後、少子高齢化の中で生産年齢人口を確保する政策を積極的に打つのか、まだ私どもも答えを持ち合わせていない。適正な財政調整基金がいくらであるかは言えないが、災害対策のために30億円くらいは必要であろうと思う。村山市政になってから130億円の財政調整基金があったが平成34年度には50億円まで減る見込みである。お金を合わせるための行革、事務事業評価ではなく、将来の街をどういう姿にするのかを描く中で、最終的にお金の折り合いが付けばいいのかと思う。だから必要以上に削減することもないだろうし、今後の投資という部分では上越地域医療センター病院の建替えや上越市斎場の改築などを見込まなければならない。今後市民の皆さんと議論をしながら収斂していかなければならない。

【中嶋浩委員】

事務事業の見直しは大変なことだと思う。今後市民の意見を聞きながら進めていく中で、その進め方や経過等を広報上越などで市民に周知するのか、今後の計画等があったら教えてほしい。

【小酒井副課長】

事務事業評価もそうだが、第6次行政推進計画の取組みについて、その進捗状況を取りまとめ、議会にも報告をしている。また、市のホームページなどで周知させていただきたい。

【佐藤忠治会長】

ほかに質問等がなければ報告事項（1）を終了する。

（八木総務管理部長、行政改革推進課退席）

次に報告事項（2）（仮称）上越市体操アリーナの整備状況について、スポーツ推進課から説明をしてもらう。

【石澤参事】

（資料No.1に基づき、（仮称）上越市体操アリーナ新築工事について説明）

【白倉係長】

（資料No.1に基づき、地域おこし協力隊制度を活用した体操指導者の配置について説明）

【柳澤周治委員】

6月、7月の諮問の内容は、具体的にどのようなものか。

【白倉係長】

開館時間や休館日など地域の皆さんが施設を利用するにあたって関連する事項について諮問させていただきたいと考えている。

【佐藤忠治会長】

指定管理での運営となるのか。

【白倉係長】

スタート時点は市の直営を考えている。しかし、市の職員が常駐する形ではなく、業務を委託して管理する形を検討している。まだ管理の実績がなく、どの程度のランニングコストが掛かるかわからないため、指定管理者制度をすぐに導入できない。

【柳澤周治委員】

体操競技に特化した管理や使用時間が多くなると思うが、それ以外で体育祭や個別サークルなど住民参加型のスポーツ活動などの使用もあると思う。それらは運用で規定するのか。また、体操以外での利用が年間スケジュールに組み込まれる余地はあるのか。体操優先で他の競技等での利用は空いているときしか使えないのか。そこの考え方を教えてほしい。

【白倉係長】

条例で団体利用などを規定するが、細かい運用までの規定は考えていない。実際の運用として、常に器具があって体操競技しか使えないのではなく、一般の人も使えるようにフラットな面を残すことを考えている。年間スケジュールについては、まず大会などを当てはめて、それ以外で個人や団体の利用が入ることになると思う。大会が優先にはなるが、地域の大きな行事で使いたいという要望があれば、年間スケジュールの調整時点で日程を抑えて利用いただくことを考えている。体操優先ではなく、その他の利用も考慮しながら年間スケジュールを組みたいと思っている。

【柳澤周治委員】

それらの細かいものが諮問の中には入るか。

【白倉係長】

諮問事項には該当しないが、運用の大まかな考え方はお伝えしたい。実際にトランポリン、新体操、体操の大会がどれくらいの頻度で入ってくるか見えていない部分もある。

【内藤恒委員】

工事について、多少の騒音は許容範囲だと思う。現在、入口に警備員が立っているが、入口付近に工事車両が5、6台止まっていることがある。交互通行は誘導に従って走行するしかないと思うが、通学路等の安全確保の考え方はいかがか。

【石澤参事】

工事の安全対策については、市も施工者も万全を期していきたいと考えており、入口には警備員を常時配置し、大型車が入るときは、国道から入ったクランクのところに警備員を増員して対応している。通学路であることも承知しているので安全第一で進めていきたい。今の発言の中で5、6台の車両が停まっているとのことだが、それは道路に停まっているのか。

【内藤恒委員】

電気工事の関係車両が道路に停まっている。Y字路の曲り角あたりに3台くらい停まっていることもある。一時的なのかもしれないが、配慮してもらわないとすれ違い等も難しい。

【石澤参事】

今の件について、市も把握していない部分があった。大至急、現場に連絡し改善させていただく。

【金澤幸彦委員】

工事の進捗率が30パーセントぐらいということだが、いつまで仮称なのか。また、女子体操競技の指導者の応募がなかったということだが、この時期になると今年はまだ見込めないのではと感じるが、どのような方法で公募されているのか。また、近いうちに見込みがあるのか。

【石澤参事】

施設の名称については、現時点では仮称であり、条例制定によって名称が決定する。9月議会への提案を目指して、正式な名称を検討している。

【白倉係長】

指導者の公募については、市のホームページへの掲載、ハローワークの求人登録、全国の地域おこし協力隊募集のホームページへ掲載して募集を継続している。あわせて、日本体操協会や日体大へも依頼して探していただいている。

【金澤幸彦委員】

指導者の待遇はどうなっているのか。

【白倉係長】

地域おこし協力隊の報酬や活動費には上限がある。女子体操競技の指導者は報酬が450万円、家賃や活動に使った車代などの活動支援費が150万円である。

【金澤幸彦委員】

これは変わらないのか。

【白倉係長】

その額を上限として募集を続けている。

【金澤幸彦委員】

現在、地元体操クラブの女子体操競技は女性の指導者である。女性指導者では体力的に小学生くらいまでしか面倒を見られないと思う。中高生は大会等で一番外に出ていく時期でもあるので、ぜひ男性指導者を配置してほしい。県内では、どこも女子中高生の指導者は男性であり、ここだけが女性である。そのあたりはしっかり進めていただきたい。

【君波豊副会長】

事務事業評価の中でも、東京オリンピック・パラリンピックホストタウン推進事業が拡充する事業となっている。我々としてもアリーナに対しては期待感が大きい。予算を確保して、PR活動も含めてオリンピック参加選手や全国クラスの選手が合宿地として利用することに取り組んでいただきたい。また、オープニングイベントについて、内容が決まったら報告してほしい。大潟区としてできることがあれば、協力、応援したいという気持ちがある。

【白倉係長】

オープニングイベントについては検討中である。竣工に相応しい日本代表レベルの選手から演技を披露いただきたいと考えており、関係団体と交渉している。具体的な内容が決まった段階で報告するので、地域一体で盛り上げていただくよう協力をお願いしたい。

【佐藤忠治会長】

他に質問等がなければこれで終了する。

(スポーツ推進課退席)

引き続き、(3)「大潟のガスの沿革」サインパネル設置について、ガス水道局北部営業所から説明してもらおう。

【飯塚参事】

資料No.2に基づき説明

【佐藤忠治会長】

質問等あるか。

【後藤紀一委員】

パネルを設置できる市有地はここしかないのか。人目に付きにくいのではないかと感

じる。大潟区営業所は借地もあったと聞いている。

【飯塚参事】

借地部分は営業所解体に伴い所有者に返還している。市有地は中央の道路部分とパネル設置予定の部分のみであり、この場所となった。

【佐藤忠治会長】

道路入口には鎖が設置されているが通れるのか。

【飯塚参事】

舗装をしてあるが強度がないため車止めの意味で鎖を設置してある。歩行者は通行できる。どなたでも通行してかまわない。

【君波豊副会長】

大潟かっぱ祭り実行委員会で、営業所跡地に山車や神輿の仮置きができないかという話が出た。私有地であり、鎖もしてあったので実行委員会で確認することとなった。通路については、ここを歩いて一般の人が祭り会場に行けることがわかった。

【佐藤忠治会長】

他になければ、「大潟のガスの沿革」サインパネル設置についてはこれで終了する。

(ガス水道局北部営業所退席)

次に(4)上越市大潟健康スポーツプラザ鵜の浜人魚館の経営状況等について、人魚館の水澤社長から説明してもらう。

【水澤社長】

日頃、人魚館をご利用いただきお礼を申し上げます。

まず、平成30年度の経営状況について説明させていただく。まだ株主総会の前であり、監査も行っていないため概略となるがご理解いただきたい。平成30年度の入館者数は91,535人で確定している。前年比325人減である。内訳は、風呂利用が65,245人、プールが19,807人、共通利用が4,583人、健康教室が1,900人であった。それらをまとめた収支状況は、営業収入が指定管理料を含んで約1億1,630万円で前年比30万円の増であった。営業支出は1億1,670万円で前年比50万円の増である。差引40万円の赤字であった。ただし、営業外収益があり最終的な経常利益は約20万円の黒字である。現在、人魚館が抱えている大きい問題は、繰越欠損である。これからの市との協議の中で非常に厳しいものがある。資本金の60パ

一セント強という繰越欠損を抱えている。これをできるだけ早く回収する手立てをしなければいけない。また、創設から23年が経過し、施設の老朽化が進み修繕費がかさんできている。平成30年度は同じ時期に入れた冷蔵庫3台と製氷機2台が故障した。今後についても明るい材料がない状況であるが、なんとか乗り越えていきたい。経費が一番大きいのが光熱水費である。経費全体の35パーセントに光熱水費が絡んでくる。お客様に迷惑をかけない程度に節電、節約に努めてきたが、年々単価が上がってきており、こちらも厳しい状況である。

経営の中身をご理解いただきながら、現行料金制度の中で新たにプールの夏期料金の設定を行いたいと考えている。7月から8月の期間で、大人が通常500円のところ600円に、小学生について400円のところ450円に改定していきたい。市とも協議をして了解を得ており、周知をしていき皆様からご理解を得ていきたいと考えている。今後もお客様から喜んでいただけるよう工夫し、おもてなしの心を大切にして運営していきたいと考えている。

これから方針に沿って市と三セクと協議を重ねていくが、繰越欠損の関係が大きな課題と捉えている。皆様のご負担にならないよう対応したいと考えているが、厳しい状況であり、大胆な見直しが含まれてくることもあるのでご理解をいただきたい。

【佐藤忠治会長】

意見や質問はあるか。

【柳澤周治委員】

三セクとして今後の在り方としての人魚館の位置づけ、経営形態等の方向性について、市からはこういう姿、形、条件など協議に先立つ前提条件が投げかけられているのか。

【水澤社長】

説明会があり、これから具体的にやっていく素案は出ている。その中で創設当時の地域の意向もあるので、ルールだけでなく、そこの部分も考えながら進めてほしいと意見が出ていた。

【柳澤周治委員】

それは、営利の部分とそれだけでない部分を含めながら見直しをしていくという解釈でいいか。

【水澤社長】

健康福祉プラザという名前のおお、創設当時の地域の思いを大切にしてほしいと思っっている。一括りで見られると、人魚館は指定管理料も多い方でありハードルは高い。

【柳澤周治委員】

平成9年の立ち上げ時は、18万人と設定し1、2年はそれで推移してきた。当時から見ると入込数は半分になっている。民間施設との競合もあり、ある程度の入込数の減少はやむを得ない面がある。当時の設定料金のままで維持するのは無理な状況になっていると思う。民間と競合しながら、当初の設置目的の要素も入れながら総合的に維持できる形が追及されるべきと思う。民間などでは、例えば900円、1,000円の料金でもお客が入るところはある。そこに魅力があるからだと思うが、そのあたりの追及が料金体系の見直しをしながらでも可能なのか。また、最終的に市が考えている姿が、三セクをやめて民間売却するということまで考えているのかどうか。そういう構想を投げかけている中での今後の協議になるのか。もし市がそのように考えているのであれば、地域協議会としても施設の在り方としての議論をしっかりしなければいけない。

【水澤社長】

今回、夏期料金の設定ということで早めに皆さんにお知らせした。市の最終的な考えは現場では出ている。ただ、立ち上げ時の地域の思い等があるので十分に協議しながら進めるという話である。ただ、地域の思いとは別に、市内の温浴施設のひとつとして見られている部分があり、改善できるところは改善しなければいけない。料金が高くても魅力があり流行っている施設は多くある。私も入った時からプールなどについて思っているところもあり、完全な形態になっていない気持ちはある。利用者からももう少しレーンがあればいいというような話をお聞きする。しかし、これから費用をかけて改修するのは難しい。現状の中で話を進めていかなければならない。

【中嶋浩委員】

地域協議会で鵜の浜温泉の活性化についても協議するが、人魚館は温泉街の一角を担って頑張っていたでいる。今後もぜひ頑張っていたでいることをお願いしたい。施設は老朽化してきて大変な時期だが大胆な見直しという話がでていた。限られた施設で、中身の工夫も大変であると思う。具体的にどのような考えがあるか再度お聞かせいただきたい。また、7つのホールディングスとの関係はどうなのか。

【水澤社長】

大胆な見直しは、収益の改善を図っていかないと難しい。料金の値上げ、経費の大幅な削減を含めて大胆な見直しという表現にさせていただいた。お客様にご迷惑をお掛けする部分もあると思うが、市との協議の中で、お互いに妥協したなかで対応していかなければならない。当然、料金の値上げに伴いお客の数が減ることも想定される。そこも踏まえたなかで、改定もやむを得ないとの提案である。Jーホールディングスとの関わりについては、Jーホールディングス自体が厳しい状態である。Jーホールディングスが株式を全部持ったので、本来であれば7つの子会社が経営改善によって黒字を出して配当を納めて活動するのがベストだが、7社がそこまで行っていない。ただ、共同仕入れや経理部分の集約といった当初の目的もある。前社長も努力してきたベースがあるが、まだ踏み込めない部分もある。そこを乗り越えて各社がある程度負担をしながら形を作っていかなざるを得ないという状況である。

【内藤恒委員】

夏期料金でどれくらいの売上げ増を見込むか。

【水澤社長】

地元の利用者は値上げという意識があると思うので若干落ち込むと考える。長野、群馬などの県外者は受け入れられると考える。2か月間で36万円の増収を見込んでいる。

【内藤恒委員】

プールとお風呂のセット料金も値上げしてもいいのでないか。

【水澤社長】

セットの料金も上げる。

【内藤恒委員】

7つのホールディングスの中での人的交流は考えていないか。

【水澤社長】

話は出てきているが、通年でやっている施設は難しい。キューピットバレイのように夏と冬で差のある施設は、人材派遣を利用している部分を、職員同士で応援体制が作れると経費削減できる部分もあり現在も進行している。ただ、他の施設も手一杯の中で動いており難しい。

【内藤恒委員】

マリンホテルはまなすが、今年の3月決算見込みで大きなマイナスだと聞いている。その一番大きな問題は人であり料理長や支配人の交代などが絡んでいると思う。施設は人からとも言うが、社員教育を大事にしていけないといけないと思う。

【水澤社長】

人魚館も危機的な状況であるのご理解いただきながら、皆様からも応援していただきたい。

【君波豊副会長】

上越市の統計要覧を見たが、やはり集客数が問題点と感じる。もう少し集客数が増えると楽な経営ができるのではないか。3月議会でリフレ上越山里振興が取り上げられていたが、そういったところと比べると人魚館は成果を上げていると思う。もうひと踏み張りしていただきたい。設立当初は大潟地域活性化センターという名称で、ワイン関係も行ってた。お客さんを引き付けるということでそういったことも検討してはどうか。食で魅力を出していくことも必要である。

【内藤恒委員】

最後は飲食の売上げを増やすしかない。ゆっつりの郷が黒字を続けているのは飲食の売上げが40パーセント以上を占めているのが要因である。

【水澤社長】

集客を兼ねて飲食で対応していかないと難しい面がある。お風呂とプールの収益だけであれだけの館を維持していくのは厳しい。そこを飲食でカバーしながらやってきている。皆様にもご利用していただきながら改善を図っていきたい。

【中嶋浩委員】

鵜の浜には商店がない。売店の拡大は考えられないか。

【水澤社長】

エリアは決まった中でしかできないが、ニーズを捉えて売上げ増につながるかを見極めていかないと難しい。また、商品の数等をきちんと納めてもらえる卸業者がいるかを含めて検討していきたい。先ほど、大潟地域活性化センターはワインからスタートしたと話が出たが、昨年、お酒の^{おろし}卸免許を取得した。J-ホールディングスでも取り扱ってもらえるようになった。

【佐藤忠治会長】

他に質問等なければこれで報告事項を終了する。

(水澤社長退席)

続いて協議事項(1)平成31年度地域活動支援事業審査日程等について事務局から説明してもらう。

【水澤主任】

(資料No.3に基づき説明)

【佐藤忠治会長】

質問等あるか。

(一同無し)

では、平成31年度地域活動支援事業審査日程等については資料のとおりとする。

続いて、(2)自主的審議事項「鵜の浜温泉の活性化」について事務局から説明してもらう。

【朝日班長】

(資料No.4に基づき説明)

【佐藤忠治会長】

まず、通知票の内容はこれでよいか。

【後藤紀一委員】

東京オリンピックに出場予定のドイツ体操選手団の受入についての記載は必要か。一時的なものである。

【佐藤忠治会長】

明るい話題でもあり記載した。

【後藤紀一委員】

話によると鵜の浜には宿泊しないと聞いている。記載してもいいとも思うが。

【佐藤忠治会長】

いいのではないか。異論がなければこの内容で提出をする。

(一同了承)

今後、会長と副会長で関係団体等の思いを伺って、それを地域協議会に報告する。その後、観光交流推進課に鵜の浜温泉の観光振興をどのように考えているかを聞いて、そ

れを材料に地域協議会としてのどのようなことができるかを協議するのがいいと考える。まずは地域活動支援事業の審議が中心になるが、その期間の中であたれるところにあたっていき、7月か8月にその報告を基に協議をしていただきたい。また、検討会を作る必要性についても協議をしていただきたい。情報共有を行い、関係団体が集まって協議する場も設けたいし、市の担当課から来てもらい活性化について協議することも皆さんから検討していただきたい。最終的には、市長に意見書を提出できるようにやればよいと思う。意見等はないか。

(一同無し)

意見が無いようなので当面そのように進める。

(一同了承)

では、その他に移る。総合事務所からあるか。

【佐々木次長】

(平成31年度大潟区に係る主要事業について資料に基づき説明)

【佐藤忠治会長】

これについては資料を確認して質問等があったら次回以降にお願いする。他に報告等あるか。

【君波副会長】

今年度の地域協議会だよりの編集委員は細井委員、柳澤委員、山田委員、山本委員と私の5人である。また、編集ソフトの関係で会長からも入ってもらう。

かっぱ祭りについてだが、4月9日に第1回実行委員会が開催された。予算規模は例年並みであり、すでに実行委員が手分けをして協賛金の集金を始めている。また、山車、神輿の出発時間を早めるかどうか検討されている。

【柳澤周治委員】

4月19日に大潟区町内会長協議会の総会があった。役員改選があり、私が町内会長協議会の会長をやることになった。また、小山委員が町内会長協議会の副会長に選任されたので報告させていただく。

【佐々木次長】

今後の日程について説明させていただく。第1回大潟区地域協議会勉強会を5月16日(木)午後6時30分から開催する。第2回大潟区地域協議会は5月30日(木)午

後6時00分から開催する。

【君波豊副会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

大潟区総合事務所 総務・地域振興グループ TEL：025-534-2111（内線201、216）

E-mail：ogata-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。